

2007 FCJ シリーズ第 17-18 戦

■ 11 月 15 日 フリー走行 1 日目 DRY

いよいよこのイベントで今シーズンを終えることとなります。僕は今年 1 年、みなさんに頂いたチャンスで絶対にチャンピオンをとるつもりでレースに挑みました。しかし結果はボロボロで、ここまで優勝はおろか、表彰台も上れません。それでも最後に自分が成長したところを表したく、絶対に優勝するつもりで、このイベントを迎えました。

今回は今シーズンで3回目となる鈴鹿でのレースです。自分としても1番走りこんでいて、得意とするサーキットでした。この日は走り始めてすぐに車の調子がおかしいことに気付きます。しかしとりあえずは久しぶりの走行ということもあり、感覚を取り戻すことと、本当に車の調子がおかしいのかということを確認するために5周ほど周回を重ねました。そして車がおかしいなりにどうにか1周まとめ2'04.820というタイムで3番手につけます。しかしその周にも車のおかしな動きをハッキリ感じたので、一度ピットインしてメカニックの方に見てもらいました。けれどその場では細かいところまでは調べることが出来ず、30分ほどで応急処置をしてもらいコースに戻りました。しかし残り時間も10分ほどとそこからはタイムアップも出来ず、5番までポジションを落としてこのセッションを終えることとなりました。

午後からはこの症状がどんどん酷くなり、1周まとめるのも中々難しい状況でした。車の動きも段々ピーキーになり、コース上に留まるのが精一杯でタイムもあげられないまま、この日は総合5番手で終えることとなりました。

■ 11 月 16 日 フリー走行 2 日目 DRY

前日の夜に車のおかしかった原因を見てもらい、壊れていた部品を交換して、2日目の走行を迎えることとなりました。今回のイベントで今までと変わった事は、最終戦ということもありリヤウイングをかなりねかしたという事でした。こうすることでリヤのダウンホースが極端に減り、今まで以上にコントロールする能力が必要となります。それを木曜の走行では今まで通りだったのが、金曜日の走行から急に変更となったので、この日の走行が新しい挙動に慣れる為にも、かなり大事な走行となります。

そして始まった午前中の走行なのですが、走り始めた1周目から昨日のおかしな挙動が直っていないことに気付きました。それどころか昨日よりも酷くなっていて、とても走り続けることが出来ません。その時はNEWタイヤでアタックをすところだったのですが、これ以上マシンの状態が悪くなると取り返しのつかない事になるので、午前の走行は止めて午後の走行までに直してもらうことにしました。その後はメカニックさんのおかげで午後の走行ギリギリに、間に合わせてもらいました。そして自分は午前中走ってない分、1周でも多く走りたいと思い、走行開始と共にコースインしたのですが、自分のミスでコースアウトしてしまい、そのまま走行できない状況となってしまいました。

これでこの日の走行は最後だったので、自分はこの日から変更となったマシンの動きを把握できないまま、予選を迎えることとなってしまいました。

■ 11 月 17 日 公式予選 DRY

第 17 戦 26 番手

前日の自分のミスの性で、このセットで1周も走ってないまま予選を迎えることとなりました。前日の他の選手のデータを見て、自分なりにイメージした感じで走り始めます。

この日は前日より気温、路面温度共に低かったので、NEWタイヤも温まりにくい状況でした。始めの計測1周目はゆっくりと温めながら走り、2周目から徐々に上げていたのですが、デグナー1つ目でタイヤが温まり切れておらず、コースアウトしてしまいました。しかしそのまますぐにコースに復帰して走り続けようと思ったのですが、他の選手のクラッシュで予選が赤旗中断となってしまいました。そこでそのままピットインしたのですが、コースアウトした時の衝撃でリヤウイングが外れていました。そこからはまたメカニックさんに直してもらったのですが、直してもらったときには第17戦の予選が終わってしまい、計測1周目のタイムしかなく、26番手という結果になってしまいました。

第 18 戦 23 番手

第17戦の予選から10分のインターバルを挟んで行われたこの予選、自分は前日もこのセットで走っていない上に、1回目の予選さえも自分のミスから走ることが出来ませんでした。そして第17戦のようなミスを犯さないように本当に少しづつタイムを上げて行きます。けれど自分としても完璧に気持ちで負けていて、技術どころより、正直コースアウトしないようにとおそろおそろ走るのが精一杯でした。その結果23番手という本当に情けない結果となりました。

第 17 戦 決勝 20 位 DRY

この日の午後から行われた第17戦。天候も完璧なDRYコンディションの中グリッドに付きます。結局セッティングが変わったマシンは第18戦の予選で乗ることが出来たのですが、問題は自分のメンタル面で絶対に焦らずレースを進めようと落ち着きます。そしてフォーメーションでしっかりタイヤを温めシグナルに集中しいよいよ第17戦のスタートです。

シグナルに集中してシグナルレッド・消灯・スタート！

タイミングはバッチリだったのですが、木、金のトラブルからクラッチをNEWにしたことで、今までよりクラッチが繋がる間が短く、上手くトラクションを与えることが出来ませんでした。その結果スタートでは順位を上げることは出来ず、そのままの順位で1コーナーへ。そしてダンロップを抜けたところでスピン車両があったのですが、絶対に巻き込まれないように、しっかり動きを見てコーナーをクリアします。そしてそのままデグナー2つ目で他の選手が並んでいるところを見て、ミスをした瞬間に更に1台をパス。そこからスプーン2つ目をしっかり立ち上がり、バックストレートでもう1台をパスして1周目を22位で通過します。

そして前の車に追い付き、どこで仕掛けるか伺いながら、またスプーン2つ目で上手く立ち上がりバックストレートでしっかりスリッパに入ります。そしてシケンでインを刺そうと130Rを立ち上がった瞬間、前の選手がスピンアウト。この周で21位にポジションアップします。その後は単独になり、少しづつタイムを上げていきます。

そしてレースも中盤に入り、前の選手がミスしたこともあって 20 位までポジションを上げます。そこからは後ろの選手からプレッシャーをかけられながらも、ミスのない走りが心がけ、少しづつ前の選手に追い付きます。けれど中々抜くまでには至らず結局そのまま 20 位でチェッカーとなりました。

このレースを終え、この日の予選、決勝と走りきったことでやっとこのセットでのマシンの動きがわかってきた気がします。しかしその時点でかなり遅く、すでに最終戦の分の予選も終わっていました。今回は金曜日の流れから全てが決まってしまったと思います。しかし今は自分にやれること全てを、最終戦に集中して挑みたいと思います。

■ 11 月 18 日 決勝 18 位 DRY

この日は午後からのレースだったのですが、気温、路面温度共に中々上がらないような肌寒い中レースが行われました。決勝前に前日のレース後半から感じられたマシンバランスから、タイヤの空気圧を少し調整してレースに挑みました。このレースで最終戦なので、もちろん完走は目標なのですが、絶対に後悔はせず、順位を少しでも上げて帰ってくるという気持ちでスタートの時を待ちます。そしてフォーメーションラップでしっかりタイヤを温め、シグナルに集中します。

シグナルレッド・消灯・スタート！

タイミングはいいのですが、またしてもその後のクラッチミートが上手くいかず少し順位を下げます。けれどスタート直後の 2 コーナー立ち上がりでスピン車両があり順位があがります。そしてそのまま 1 周目を 20 位で帰って来たのですが、フォーメーションでのタイヤの温め方が足りなかったのか、アンダーが酷く中々前の車に仕掛けられませんでした。

しかし 2 周目を終える直前にバックストレートでクラッシュがあり、赤旗でレース中断、再スタートがきられる事となりました。そしてこの間にアンダーステアを減らす為、タイヤの内圧を調整してもらおうと思ったのですが、ルー尔的にそれが出来ないまま再スタートということになりました。

次のリスタートは 1 周目の順位から再スタートとなり 20 位からのスタートとなります。次こそ決めようとシグナルに集中してスタートします。けれどまたしてもホイールスピンが多く、順位を下げてしまいました。すると今度は 1 コーナーで多重クラッシュがあり、それを避けて一旦コース外に逃げたのですが、スピンしながら向かってきた車両と軽く接触。けれどどうにかコースには復帰でき、前の車を追います。すると今度はこのクラッシュが原因でセーフティーカーが入ることになり、隊列の後ろに追い付いてグリーンランプに集中します。けれどこのスタートも前の車をパス出来るほどではなく、そのままの順位で周回を重ねます。

しかし今回のレースはウイングの変更のせいかコースアウトする車両が続出し、自分も少しづつ順位を上げて行きます。そしてレースも中盤に入り、後ろからもプレッシャーをかけられる中、大きなミスをする事はなく自分のペースで走っていたのですが、とうとう 1 コーナーでインを指されひとつ順位を下げてしまいます。しかし諦めず抜き返すチャンスを伺っていたのですが、そんな時前の選手がスプーン 2 つ目でミスします。そこを見逃がさずバックストレートで並びかけ、130R を外からかぶせて抜き返します。これで順位も 13 番手と浮上し、レースも後半に入ります。

しかしリアタイヤがきつくなってきた頃に、ダンロップコーナーで失速した隙を突かれ、再び抜き返されてしまい 14 番手となってしまいました。ここからは単独の走行となったのですが、単独で走ると落ち着いて走りを見直すことができ、タイムの方も安定して上がり始めます。そして徐々に前の集団に追い付くことができ、残り周回数も 2 周となったバックストレートで前の車が急激に失速します。残り周回数のことも考え「次のシケインでブレーキング勝負を仕掛けるしかない！」と判断した自分は 130R の車速を上げようと全開で進入してみたのですが、縁石に乗りすぎてしまい結果はスピン。どうにかコースに復帰できたのですが、順位は大きく落としてしまい、18 番手となってしまいました。けれど残りの周回数も少なくそのままの順位でチェッカーとなり、今シーズン最後のレースを終えることとなりました。

今回のレースを終えて後悔していないか？と考えるとやはり後悔をするような結果となってしまいました。

木曜の走り始めは良く、「今回こそは！」と意気込んでいたのですが、それも全て空回り。今回は木、金といつも起こらないようなマシントラブルも確かにありました。けれどそれを挽回するチャンスをメカニックの方に作ってもらったにも関わらず、そのチャンスを無駄にしたのは紛れもなく自分の「焦り」などメンタル面でした。今年一年本当にこのメンタル面で数々のチャンスを潰してきたにも関わらず、結局最後までこの部分は直せませんでした。

それならこの 1 年何も成長していないか？と考えるとそうではなく、去年に比べて技術的には絶対に速くなっていると実感しています。しかしその技術を結果に繋げるには強いメンタル面が必要で、今の自分にはそのバランスが全然取れていませんでした。

今年 1 年は何をやっても上手くいかず、本当に悔しいシーズンとなりました。それと同時に、みなさんには少しも恩返しできないような結果しか残せず、本当に申し訳ないです。すいませんでした。

しかしそれと同時に色々な経験をさせてもらった 1 年にもなり、この経験はレースはもちろん、これからどんな生き方をしても絶対に自分の為になるものだと思います。そんな貴重な経験をさせてもらったのも服部さんを始め、沢山のスポンサー様やレース関係者の方、その他にも色々な形で応援して頂いた皆さんのおかげだと思います。

結果も残せずに、このような環境でやれたのは本当に周りの方に恵まれていたからだと思うし、そんな自分は本当に幸せだなと実感しています。

本当にありがとうございました。

これからのことは正直まだ何も考えられていませんが、何をやるにしてもこの経験を活かして、強い意志を持ちやっていきたいと思っています。

今年一年間本当にお世話になり、ありがとうございました。

Team NAOKI with LE PRIX SPORT

吉田 広樹